

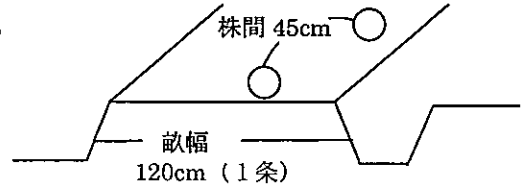
# 【きゅうり】

作型	栽培期(月)												参考品種	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
露地普通				○	○									

## ◎ 定植

畝幅 120cm×株間 45cm。連作不可(2~3年)。

マルチに穴をあけ植え穴を掘り、  
アクタラ粒を1穴1~2gを混和。



## ◎ 施肥

定植の前にネオベストを全面散布、または畝に施し、耕運、畝立てする。

野菜屋さん	1坪当り	1a(30坪)当り	回数	ネオベスト (有機石灰)	1a(30坪)当り	回数
基肥	300g	9kg	—	基肥	10kg	—
追肥	100g	3kg	3回	追肥	3kg	2回

## ◎ 栽培管理

- 定植作業が終わったら早めに支柱を立てる。
- 植付後 10 日おきに追肥、1回目は株間に、2 回目以降うねの肩に施し覆土する。
- 地際 30cm までの子づると、果実をすべて取り除く。葉の重なりによる混雑を防止する。
- 水は土の表面が乾いたら施す。
- かん水は朝夕の涼しい時間帯に行います。

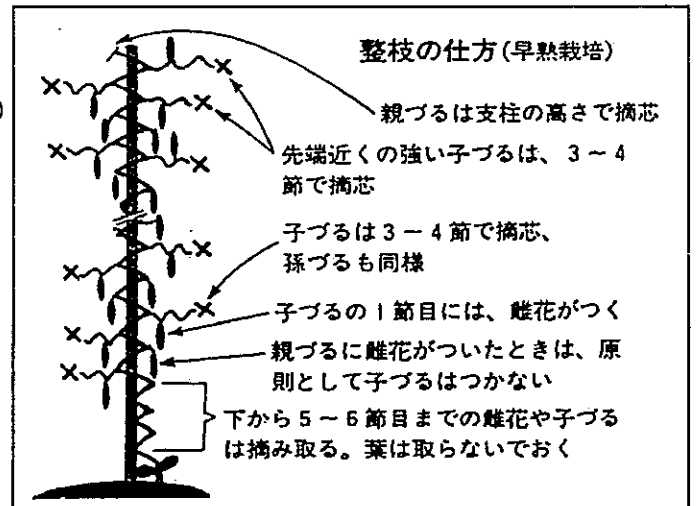
(長時間のかん水は根を痛めるので注意)

- 梅雨明けまでに畝に敷きワラをします。
- (敷きワラにはこんな効果?)

- ・ 土壌の乾燥防止
- ・ 雑草の発生防止
- ・ 土のはね返り防止
- ・ 病害虫の防止
- ・ 地温の確保

- 古葉及び病葉かき

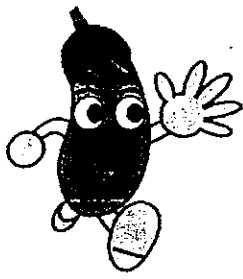
生育中期以降は葉が混んでくるので、古葉(45~50日たった葉)、黄変葉、り病葉を適宜摘んでやり、葉の活動がしやすいように整えてやる。(通風と採光をはかる)



## ◎ 病害虫防除

病害虫名

べと病	葉の裏面にスス状のカビがでる。過湿、肥切れ。
斑点細菌病	葉に少しくぼんだ斑点ができる。低温時の多湿。
疫病	地際部が水浸状に軟化くびれる。多湿(立枯疫病)。
うどんこ病	葉の表面に粉をかけたような白色。高温乾燥。
ハダニ類	下葉から発生、葉表がカスリ状に白くなる。高温乾燥。
アブラムシ類	新葉が湾曲し、生育が悪くなる。定期防除。



# 【 な す 】

作型	栽培期(月)												参考品種		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
露地普通					○	□									千両、みず 茄子、十全

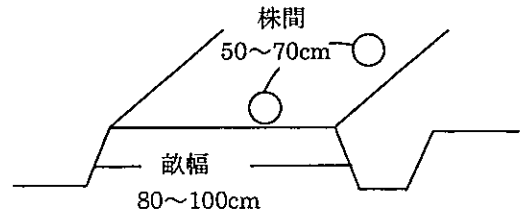
## ◎ 定植 畝幅 80~100cm 株間 50~70cm

○時期… 5月上旬以降で地温が15℃以上(生育温度25~28℃)

確保できる頃に定植します。無理な早植えは、生育停滞、石なすなどの原因になるので禁物。

○定植方法…前もって苗に十分かん水をする。アブラムシ防除のため、

植え穴にアクタラ粒剤を1~2g混和しておきます。深植えにならないように植えます。支柱は早めに立てます。



## ◎ 施肥

定植10日前頃までに、ネオベスト・たい肥などを全面散布し耕運しておきます。

その他基肥は定植10日目頃までに畝面に施用し耕運します。

野菜屋さん	1坪当り	1a(30坪)当り	回数	ネオベスト (有機石灰)	1坪当り	回数
基肥	500g	15kg	—	基肥	500g	—
追肥	70g	2kg	10日おき	追肥	40g	2回

茎・葉が成長しながら収穫部の肥大がすすんでいくもの。追肥は少しずつこまめにする。

追肥はかん水後、施すと土壌浸透します。

## ◎ 栽培管理

### 整枝…整枝本数

○3本立てにします。主枝と1番花のすぐ下の節からでる側枝と、その下位節からでる側枝合せて3本の主枝にします。その下の側枝は早めにかきとります。

○誘引方法…直立仕立てとV字仕立てがあります。

☆直立仕立て:支柱垂直に立てて誘引する方法。

側枝の放任状態では過繁茂になりやすいので、側枝の剪定と古葉の除去を徹底して行う。

☆V字仕立て:主枝を2~3本左右に振り分けて、

V字型に誘引する方法。長期収穫用で、光線透過が良く、良品が多く収穫できる。

○更新剪定(切り戻し)…7月下旬に主枝、

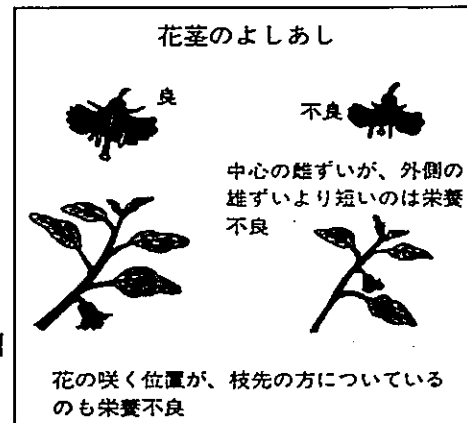
側枝の下位の葉~3枚残して切り取ると、8月下旬から

秋なすの生産ができる。剪定後、すぐ追肥 25~30 日で収穫。

○敷きワラ・かん水…乾燥防止や地温の上がり過ぎに

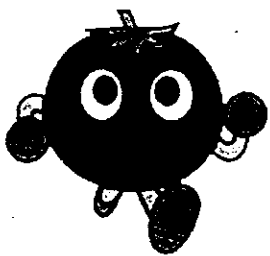
畝全面に敷きワラ、梅雨明け後に乾燥が続くときは畝間にかん水を。

○樹勢管理…なすの花の大きさ、色、形、開花位置などによって栄養状態がわかる。



## ◎ 病虫害防除

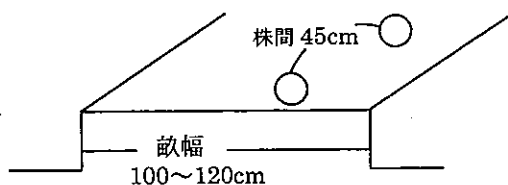
褐紋病	
青枯病	ナス科の連作を避ける。
半身萎ちょう病	
アブラムシ類	生長点、葉裏に寄生。
ハダニ類	乾燥期に発生。
テントウムシダマシ	馬鈴薯畑付近に多い。



作型	栽培期(月)												参考品種	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
露地普通				○	△	—								桃太郎

◎ 定植

畝幅 120cm×株間 45cm  
 マルチに穴をあけ植え穴を掘り、  
 アドマイヤーを1穴1~2gを混和。



◎ 気候と土壌

トマトは昼間高温、夜間冷涼な場合により生育をする。  
 トマトは強光を好み、日照が不足すると徒長し、開花数も減少してくる。(生育適温 25℃~30℃・2~3年連作不可)  
 土壌は植壤土が最もよく、粘土質の壤土は病気が少ないが、熟期が遅れる傾向にある。また砂地では病気が多く、早く樹が弱り、これを防ぐには堆肥を多く施し、十分にかん水する必要がある。  
 土壌酸度はPH6.2~6.4ぐらいが最適とされている。

野菜屋さん	1坪当り	1a(30坪)当り	回数
基肥	300g	8kg	1回
追肥	100g	3kg	2回
ネオベスト(有機石灰)	1坪当り	1a(30坪)当り	回数
基肥	300g	10kg	1回
追肥	200g	6kg	1回

◎ 栽培管理

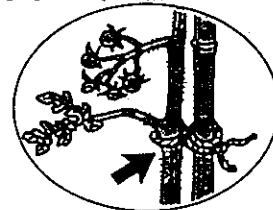
元肥を少なめに第1花房の果実がピンポン玉くらいの時、第1回追肥をし、第3房開花から10日おきに追肥をする。  
 定植後遅れないように各花房の下で、ひもまたは誘引テープを使用して誘引します。

\* 栄養過剰…葉茎の色が濃く葉が巻いてねじれ、  
 茎葉柄とも太くなって果の肥大成熟が遅れる。  
 (肥料・水分が多すぎる)

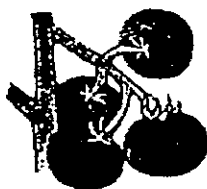
\* 栄養不足…茎葉の色があせて黄色や紫色に変わり  
 かたくなる。生長点の茎が細くなる。果実の肥大が悪く落果が多くなる。(水分・チン肥料不足)

\* カルシウム(石灰)欠乏に注意…ネオベストを全面散布と、ウネ散布する。

支柱への誘引  
 茎を締めつけないように、支柱に  
 ひもで8の字に結ぶ。



○1花房当り3~5果に整理します。



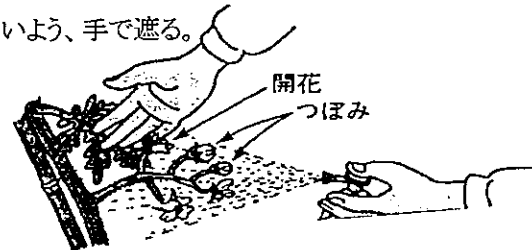
○わき芽が大きにならないように摘芽を行います。



○第1花房は外側に向けて植える。



○ホルモン処理:一つの花房に2~3花咲いたら散布。  
 若芽にかからないよう、手で遮る。



◎ 病虫害防除

疫病……葉、茎、果実を浸す。気温 20~23℃で多湿時。  
 灰色かび病……花びら等かれた部分から発病、20℃前後多湿時。  
 アブラムシ類……定植直後から発生、高温で多発。  
 オンシツコナジラミ……育苗中に寄生、高温で多発し、果実汚染。  
 葉かび病……葉の表面に輪郭の淡黄色の小斑点、20~25℃の高温多湿で